

朝鮮語における -i/ -hi/ -li/ -ki および -cita 形受身文の 統語的・意味的特徴

鈴木 麻水

(言語文化学部 朝鮮語専攻)

キーワード：朝鮮語，受身文，有生性，アスペクト，動詞の形態

0. はじめに

朝鮮語¹の受身文は、動詞によって形式が異なる。塚本 (2012) によれば、固有語動詞の場合には、形態上、接尾辞 -i/ -hi/ -li/ -ki を用いた受身文と補助動詞 -cita を用いた受身文の2種類がある。一方、漢語動詞²の場合には、接尾辞 -toyta、-patta、-tanghata を用いたもの³がある。

本稿では、このうちの固有語動詞の受身文すなわち接尾辞 -i/ -hi/ -li/ -ki⁴および補助動詞 -cita⁵を用いた受身文（以下 -i/ -cita 形受身文とする）を対象とする。塚本 (2012) を基に5つの動詞グループ (A) ~ (E) を設定し、-i/ -cita 形受身文における主格補語の有生性と明示性、アスペクトに関する調査を行う。動詞の形態的特徴と、-i/ -cita 形受身文における統語的・意味的特徴との関わりを明らかにすることを調査の目的とする。さらに、-i 形受身文と -cita 形受身文の違いを再検討する。なお、本稿では、先行研究を含め統一してハングルをイェール式表記法によりローマ字表記する。本文中の例文番号、表番号、グロス、日本語訳、下線・囲み線・太字は、先行研究を含め特に断りのない限り筆者によるものである。

1. 先行研究

先行研究は、次のものを扱う。まず 1.1. 節に、本稿が直接の対象とする塚本 (2012) を要約する。次に、背景知識及び考察の際に参考にした先行研究として 1.2. 節に許明子 (2004)、1.3. 節に Brown and Yeon (2015)、1.4. 節に風間 (2012) を要約する。

1.1. 塚本 (2012)

塚本 (2012: 387-397) は、受身文における -i/ -cita 形の、動詞による使い分けと、統語的・意味的特徴を整理している。-i 形か -cita 形かを選択する基準として、動詞の形態的要因を挙げている。さらに、-i 形か -cita 形かといった形式の違いが、統語的・意味的側面に影響を及ぼすことが指摘されている。塚本 (2012) の概要を以下の表1に示す。塚本 (2012) では、3項動詞能動文から受身文への転換における制約と2項動詞受身文における動作主のマーカーについても触れているが、本稿では扱わない。

¹ この言語の名称に関しては諸説あるが、本稿では先行研究を含め朝鮮語で統一する。また、本稿では朝鮮半島で広く用いられている言語を対象とする。

² 辞書に漢語動詞であることを示す表記がある。

³ -patta と -tanghata を用いた表現を漢語動詞の受身表現として含めない見方もある。

⁴ 朝鮮語の接尾辞 -i は固有語動詞の語幹に接続され、使役動詞、受身動詞を派生させる。さらに、使役動詞派生接辞は他動詞派生接辞、受身動詞派生接辞は自動詞派生接辞でもあるため、当該の派生語が、使役、他動、受身、自動であるかは動詞ごとに一々確認されねばならない。(伊藤 (2012) を要約)

⁵ 円山 (2005) 中の補助動詞 -cita の説明を以下に要約する。

一般的に、補助動詞 cita は本動詞 cita 「落ちる、負ける、負う…」が文法化してできたものであり、[動詞 + cita] が「受身」「自発」「可能」、[形容詞 + cita] は「状態変化」というように、複数の文法対立にまたがる機能を持つとされている。(円山 (2005) を要約)

⁶ -hi/ -li/ -ki は -i の異形態であるので、これらを -i 形としてまとめる。

表 1: 塚本 (2012) の概要

	-i 形	-cita 形
受身形式が付加される動詞の種類	(A) 形態上、派生 ⁷ を経していない他動詞	(B) 形態上、派生を経していない他動詞だが、対応する-i 形を持たないもの (C) 派生を経て形成された他動詞
主格補語の意味特性	大部分が有生	大部分が無生
アスペクト ⁸	動詞語幹 + ko issta	動詞語幹 + ko issta 動詞連用形 + issta

(塚本 (2012 : 387-397) を基に筆者作成)

1.2. 許明子 (2004)

話しことばにおける受身文では有情物⁹主語の使用率が高いのに対し、書きことばにおける受身文では無情物主語の使用率が高い。主語の有情性は、文章のスタイルによって顕著な違いが見られる。さらに、動作主も見ると主語と動作主が共に無情物である割合が高い。

(許明子 (2004: 192-247) を要約)

1.3. Brown and Yeon (2015)

構文に 2 つ以上の名詞句がある場合、有生性の高い名詞句が主語になる傾向がある。例えば、能動文において被動者の名詞句が有生で主語（動作主）の名詞句より有生性が高い場合には、受身文で表現することが好まれる。そのため、一般的に受身構文において無生主語が現れるのは例外的とされている。例外的に、無生主語の受身文が許容される条件としては、次の 2 つがある。①動作主が文中で特定されない場合②2 つの名詞句が共に有生もしくは無生の場合（有生性が等しい場合）。

(Brown and Yeon (2015:126-129) を要約)

1.4. 風間 (2012)

風間 (2012) は諸言語の自発文を対照した項目において、日本語は無生物主語の他動詞文を避ける傾向があるのに対し、朝鮮語とモンゴル語では、無生物主語が許容され現れている例が見られると指摘している。

2. 先行研究の問題点

塚本 (2012) において、-i 形受身文と -cita 形受身文の統語的・意味的特徴は明らかにされているが、(A)~(C) の動詞グループと -i / -cita 形受身文の統語的・意味的特徴との関わりについては詳細に述べられていない。仮説として、-cita 形受身文の中でも、(B) グループの文と (C) グループの文では、統語的・意味的特徴に違いがある可能性が考えられる。

3. 調査目的と調査方法

-i / -cita 形受身文の主格補語の有生性とアスペクトについて、動詞グループごとに比較し、

⁷ -i による派生。各グループの動詞は、例えば (A) ppop-ta 「選ぶ」、ssu-ta 「使う、用いる」など (B) kku-ta 「消す」、wumciki-ta 「動く」など (C) swum-ki-ta 「隠す」、nul-li-ta 「増やす、伸ばす」などがある。

⁸ 朝鮮語のアスペクトには、動詞語幹に -ko といった接続語尾が付加され、さらにその後に動詞の issta 「いる・ある」が続く、という形式がある（以後、[動詞語幹 + ko issta] と表記）。この形式は〈動作・行為の最中〉を表す。一方、動詞連用形に動詞の issta 「いる・ある」が接続する形式（以後、[動詞連用形 + issta] と表記）は〈動作・行為の結果の状態〉を表す。なお、[動詞連用形 + issta] は本稿では a/e issta と表記する。

⁹ 朝鮮語学では、有生／無生を有情／無情と表現することが多い。

各動詞グループの受身文の特徴を明らかにすることを本調査の目的とする。さらにその結果を踏まえて -i 形受身文と -cita 形受身文の違いを再検討する。

本稿では、2000 年以降の新聞記事における終止形で終わる [他動詞+ -i/-cita] 形受身文¹⁰をコーパス検索により抽出した。抽出したのち、受身の意味ではない例文を手作業で除外した。次に抽出した -i/-cita 形受身文を、動詞の形態によって 5 つのグループに分類した。分類は、朝鮮語ネイティブ 1 名¹¹の内省により行った。以下に 5 つの動詞グループを示す。

〈5 つの動詞グループ〉¹²

- (A) -i による派生を経ていない他動詞
- (B) -i による派生を経ていない他動詞だが、対応する -i 形を持たないもの
- (C) -i による派生を経て形成された他動詞
- (D) -i 以外の接尾辞 (例 使役派生接辞 -wu) による派生過程を経て形成された他動詞
- (E) 分類できない他動詞¹³

コーパス調査には、‘21seyki seycongkyeyhoyk malmwungchi’ 「21 世紀世宗計画コーパス」と、その検索ソフト ‘Hanmal 2.0’ 「ハンマル 2.0」を用いた。本調査で対象とした 2000 年以降に出版された新聞記事のファイルは 24 ファイルあり、総文数は 74,828 文である。-i 形受身文の抽出にあたっては、崔昌玉 (2010) の受身動詞リストを参考にし、調査を行った。具体的には、崔昌玉 (2010) において選定された、「接尾辞 -i を伴い他動詞から受身形に派生する動詞」のうち意味が受動のみと記載された 50 動詞をコーパスで検索した。

このコーパスでは、形態と意味を指定して検索することができる。以下に本稿で用いた検索例を示す。-i 形と -cita 形で検索方法が異なる。

〈 -i 形の場合〉

崔昌玉 (2010:102-103) に示された受身形の動詞を検索する。



- 例) 담기다 tam-ki-ta (盛られる): 「담기__01VV#」¹⁴と入力し、検索する。
- 담기다 tam-ki-ta (浸けられる): 「담기__02VV#」と入力し、検索する。
- 낚이다 nakk-i-ta (釣られる): 「낚이/VV#」と入力し、検索する

〈 -cita 形の場合〉

- 例) 「#지/VX#」と入力し、動詞を指定せず検索する。

4. 調査結果と考察

コーパス調査により得られた -i/-cita 形受身文、全 484 例 ((A) 237 例、(B) 99 例、(C) 100 例、(D) 28 例、(E) 20 例) の分析を行った。

¹⁰ 終止形に引用形 (-ko) 等が続くものは除外し、[受身動詞語幹+終止形] と [受身動詞語幹+時制・アスペクト+終止形] の例文のみを手作業で抜き出した。ただし、受身動詞語幹+ 時制・アスペクト+終止形の場合は対象に含む。否定+終止形は対象としない。Kkul-e-ka-ssta のような受身形に動詞が接続した形の複合動詞は対象としない。なお、分ち書きされていない複合動詞は対象に含む(例 patatul--ta)。

¹¹ 1960 年代生、ソウル出身の女性で朝鮮語学の知識があり、動詞の形態的な分類が可能な人物である。

¹² 塚本 (2012) の 3 つの動詞グループ (A) ~ (C) に、筆者が新たに (D) と (E) の 2 グループを加えたものである。

¹³ 該当する動詞は、patatuli-ta 「受け入れる」と kyethtuli-ta 「添える」の 2 動詞のみである。

¹⁴ このように複数の意味がある動詞は、『Pyocwun kwuke taysacen (標準国語大辞典/オンライン版)』に準拠した見出しから意味を選択し、区別して検索することができる。

4.1. 主格補語の有生性

主格補語の有生性¹⁵について調査した結果を以下の表 2 に示す。

表 2: 主格補語の有生性

		主格補語の有生性				
		有生	無生	非明示	合計	
(A)	-i 形	54(22.7%)	167(70.5%)	16(6.8%)	237(100.0%)	
(B)	-cita 形	1(1.0%)	96(97.0%)	2(2.0%)	99(100.0%)	247
(C)		3(3.0%)	28(28.0%)	69(69.0%)	100(100.0%)	
(D)		0(0.0%)	28(100.0%)	0(0.0%)	28(100.0%)	
(E)		0(0.0%)	19(95.0%)	1(5.0%)	20(100.0%)	
合計		58(12.0%)	338(69.8%)	88(18.2%)	484(100.0%)	

(数字は例文数、先行研究と異なる結果は囲み線で示す)

(A) は、他のグループと比較すると有生主格補語の割合が高いが、主格補語の大部分は無生である。(B)～(E) では、有生主格補語はほとんど見られない。主格補語が明示されている場合、どのグループにおいても 100% に近い割合で無生主格補語である。以下の例文 (1) は、(A) の有生主格補語の例である。主格補語を で示す。

- (1) Khalipuhay-uy hayceksen sencang cayksuphalowu (coni teyp)-nun
 カリブ海-GEN 海賊船 船長 ジャック・スパロウ (ジョニー・デップ) -TOP
 casin-uy pay 'pullaykphel' ho-lul
 自身-GEN 船 「ブラックパール」号-ACC
 palposa (ceyhuli leswi)-eykey ppays-ki-nta.
 バルボッサ (ジェフリー・ラッシュ) -DAT 奪う-PASS-DECL
 「カリブ海の手盗船船長ジャック・スパロウ (ジョニー・デップ) は、自身の船「ブラックパール」号をバルボッサ (ジェフリー・ラッシュ) に奪われる。」
 (BSAB0173 31 73,754)¹⁶

-cita 形受身文において有生主格補語の例は非常に少ないが、(B) で 1 例、(C) で 3 例見られた。以下に有生主格補語が現れた例文を各 1 例ずつ挙げる。例文 (2) が (B) の例、例文 (3) が (C) の例である。

- (2) Ceytaylo twi-n toksein-un 'culkewu-n tokse'-lul
 きちんとなる-ADJVLZ 読書人-TOP 「楽しい-ADJVLZ 読書」-ACC
 haypo-n kyenghem-ul thonghay kill-eci-nta.
 する-ADJVLZ 経験-ACC 通して 育てる-PASS-DECL
 「きちんとした読書家は「楽しい読書」をした経験を通して育てられる。」
 (BSAB0172 30 67,261)

- (3) Nameci 3 myeng-un salin-kwa sichewwuki tung hyemuy-lo
 残り 3 名-TOP 殺人-と 死体遺棄 等 容疑-INS
 kemchal-ey nemki-eci-ess-ta.
 検察-DAT 渡す-PASS-PAST-DECL

¹⁵ 主格補語が有生か無生かの判断は、主格補語に与格助詞が付く場合、有生形 (-eykey) と無生形 (-ey) のどちらを取るかを基準として行った。

¹⁶ 以下、コーパスからの例文の出典は、(抽出ファイル名 ファイル番号 文章識別番号) として示す。

「残り 3 名は殺人と死体遺棄などの容疑で検察に引き渡された。」

(BSAB0174 32 79,823)

4.2. アスペクト

全グループにおいてアスペクト形式は接続しない傾向がある。アスペクト形式が接続する場合、(A)～(D) は ko issta よりも a/e issta をとる傾向があるといえる。一方で、(E) のみ ko issta が多いが、例数が少ないため誤差の範囲である可能性がある。

-i/-cita 形受身文におけるアスペクトに関する調査の結果を以下の表 3 に示す。

表 3: アスペクトの動詞グループによる分類

		アスペクト			合計	
		a/e issta	ko issta	無し		
(A)	-i 形	75(31.6%)	7(3.0%)	155(65.4%)	237(100.0%)	
(B)	-cita 形	17(17.2 %)	10(10.1%)	72(72.7%)	99(100.0%)	247
(C)		0(0.0%)	1(1.0%)	99(99.0%)	100(100.0%)	
(D)		9(32.1%)	3(10.7%)	16(57.1%)	28(100.0%)	
(E)		2(10.0%)	4(20.0%)	14(70.0%)	20(100.0%)	
合計		103(21.3%)	25(5.2%)	356(73.5%)	484 (100.0%)	

(数字は例文数、先行研究と異なる結果を囲み線で示す)

4.3. 主格補語の有生性とアスペクトの相関

主格補語の有生性とアスペクトの 2 つを組み合わせた 9 つの類型を設定し、例文を分類した結果が以下の表 4 である。

表 4: 動詞グループ別主格補語の有生性とアスペクトの類型 (グループごとの合計順) ¹⁷

(A)		(B)		(C)		(D)		(E)	
-i 形		-cita 形							
⑥無・なし	98	⑥無・なし	70	⑨非・なし	69	⑥無・なし	16	⑥無・なし	13
④無・a/e	65	④無・a/e	17	⑥無・なし	27	④無・a/e	9	⑤無・ko	4
③有・なし	47	⑤無・ko	9	③有・なし	3	⑤無・ko	3	④無・a/e	2
⑨非・なし	10	③有・なし	1	⑤無・ko	1	①有・a/e	0	⑨非・なし	1
⑦非・a/e	6	⑧非・ko	1	①有・a/e	0	②有・ko	0	①有・a/e	0
①有・a/e	4	⑨非・なし	1	②有・ko	0	③有・なし	0	②有・ko	0
⑤無・ko	4	①有・a/e	0	④無・a/e	0	⑦非・a/e	0	③有・なし	0
②有・ko	3	②有・ko	0	⑦非・a/e	0	⑧非・ko	0	⑦非・a/e	0
⑧非・ko	0	⑦非・a/e	0	⑧非・ko	0	⑨非・なし	0	⑧非・ko	0
合計	237	合計	99	合計	100	合計	28	合計	20

(数字は例文数、動詞グループごとの昇順)

¹⁷ 紙幅の都合上、結果を次の略号を用いて記す。無：無生主格補語／有：有生主格補語／非：主格補語非明示／ a/e：a/e issta ／ ko：ko issta／なし：アスペクト無しとする。

(A) の特徴としては、他のグループと比較して③有生・なしの例が多いことが挙げられる。ここで (A) における類型の分布の仕方を見ると、アスペクトはまとまりがあるのに対し、有生性はアスペクトと比較してややばらつきが見られる。このことから、構文との結びつきの強さは、アスペクトの方が有生性よりも強いと考えられる。(C) も同様にアスペクトの方が有生性よりも文との結びつきが強いと考えられる。この点は -cita 形の他のグループとは異なっており、(C) の特徴であるといえる。一方 (B)、(D)、(E) は特徴が類似している。全て、上位 3 類が④・⑤・⑥で、有生性の方がアスペクトよりも文との結びつきが強いと思われる。-i/-cita 形受身文全体としては、無生主格補語かつアスペクトがない傾向があるといえる。

以下に例文を挙げる。主格補語を_____で示す。例文 (4) は、(A) の④無生主格補語・a/e issta の例、例文 (5) は (B) ⑥無生主格補語・なし、例文 (6) は (C) ③有生主格補語・なしの例、例文 (7) は (D) ⑥無生主格補語・なしの例、例文 (8) は (E) ⑥無生主格補語・なしの例である。

- (4) Kwait-to cwuin-ul talm-nunka, cwukunkkay kath-un cem-i
 果物-も 主人-ACC 似る-INTERR そばかす 同じ-ADJVLZ 点-NOM
 yekiceki pak-hi-e iss-ess-ta.
 あちこち 刻む-PASS-CONT-PAST-DECL
 「果物も主人に似るのか、そばかすのような点があちこちに刻み込まれていた。」
 (BSAE0207 45 116,129)

- (5) Sanghosinloe-uy thotay-nun mantul-eci-ess-ta.
 相互信頼-GEN 土台-TOP 作る-PASS-PAST-DECL
 「相互信頼の土台は作られた。」
 (BSAE0202 40 101,228)

- (6) Wu ssi-nun inal ohwu 3 si 30 pwun ccum U then-ul ha-ten
 ウさん-TOP この日 午後 3 時 30 分 頃 U ターン-ACC する-PAST
 thayksi-ey pwutichie ungkupsil-lo olmki-eci-ess-ta.
 タクシー-DAT ぶつかって 応急室-INS 運ぶ-PASS-PAST-DECL
 「ウさんは、この日の午後 3 時 30 分頃、U ターンをしたタクシーにぶつかって応急室に運ばれた。」
 (BSAA0156 17 33,063)

- (7) Haciman chengmwunhoe-nun yeyoeeps-i haytang insa-uy
 しかし 聴聞会-TOP 例外がない-ADVLZ 解党 人事-GEN
 pwusewunsyeng chengsacin-kwa cengchayk tung epmwuswuhayng
 部署運用 青写真-と 政策 等 業務遂行
 nunglyek-ey chocem-i machwu-eci-nta.
 能力-DAT 焦点-NOM 合わせる-PASS-DECL
 「しかし、聴聞会は例外なく解党人事の部署運用の青写真と政策等の業務遂行能力に焦点が合わせられる。」
 (BSAE0205 43 108,413)

- (8) Thakinassi-uy sacin-ey cakka Seyongunssi-uy mwunhakcek
 タクインアさん-GEN 写真-DAT 作家 ソヨンウンさん-GEN 文学的
sanmwun-i kyethtuli-eci-ess-ta.
 散文-NOM 添える-PASS-PAST-DECL
 「タクインアさんの写真に作家ソヨンウンさんの文学的な散文が添えられた。」

(BSAE0203 41 104,082)

5. まとめと今後の課題

調査結果を簡潔にまとめたものが以下の表 5 である。

主格補語の有生性とアスペクトは、どちらも明示の場合に割合が高かった方の結果を記す。主格補語の有生性とアスペクトの類型は、例数の上位 3 類までを記す。影響度は、有生性とアスペクトのどちらが -i/ -cita 形受身文との結びつきが強いかを、主格補語の有生性とアスペクトのタイプの分布から考察したものである。

表 5: 動詞グループごとの各調査結果のまとめ

		有生性	明示性	アスペクト	相関	影響度
(A)	-i 形	無生	明示	a/e issta	⑥無生・なし ④無生・a/e issta ③有生・なし	アスペクト>有生性
(B)	-cita 形	無生	明示	a/e issta	⑥無生・なし ④無生・a/e issta ⑤無生・ko issta	有生性>アスペクト
(C)		無生	非明示	ko issta	⑨非明示・なし ⑥無生・なし ③有生・なし	アスペクト>有生性
(D)		無生	明示	a/e issta	⑥無生・なし ④無生・a/e issta ⑤無生・ko issta	有生性>アスペクト
(E)		無生	明示	ko issta	⑥無生・なし ⑤無生・ko issta ④無生・a/e issta	有生性>アスペクト

(先行研究と異なる結果を囲み線で示す)

<(A) と (C) の共通性>

③有生・なしの類型が上位にあることと、構文との結び付きがアスペクトの方が有生性よりも強いという 2 点において、(A) と (C) は共通している (表 5 に太字で示した)。一方で (B)、(D)、(E) の 3 グループは特徴が類似している。つまり、(C) には、-cita 形受身文の中で他のグループとの違いが見られる。したがって、本稿の仮説は成立するといえる。

(A) と (C) の受身文は、共に接尾辞 -i という形態を含んでいるという共通性を持っており、このことが (A) と (C) の受身文の特徴が類似していることに影響している可能性が考えられる。(C) は、-cita が付いた -cita 形受身文であるにもかかわらず -i 形受身文である (A) に近い特徴が出ている。このことから、(A) と (C) の受身文の特徴が類似している要因が接尾辞 -i にあるとするならば、-i は -cita よりも受身文の様々な側面に与える影響が強い可能性が考えられる。さらにこのことから、仮定として、受身形式そのものだけでなく、動詞の形態的な性質も受身文の特徴に影響を及ぼしている可能性があると考えられる。

<-i/ -cita 形受身文の特徴のまとめ (無生主格補語について) >

調査の結果、-i/-cita 形受身文全体として無生主格補語を取る傾向が見られた。細かく見ると -i 形受身文の方が有生主格補語を取る傾向がやや強いという違いがある。アスペクト形式については、両形の受身文は共に接続しない傾向があり、接続する場合は a/e issta を取る傾向がある。

この結果は、-i 形受身文に関しては塚本 (2012) と異なり、さらに無生主格補語の割合が高いことは、一般論とも一致していない。そこで、今回の調査で無生主格補語が多数現れた理由について考察した結果、次の 4 つの条件が関わっていることが可能性として考えられた。(条件については、1.2. 節から 1.4. 節の先行研究を参照のこと。)

- 1) 書きことばにおける受身文であること
- 2) 受身文において動作主が非明示であること
- 3) 主格補語 (被動者) と動作主の名詞句階層が等しいこと
- 4) -i/-cita 形受身文が自発文に近い性質を持っていること

今後の課題としては、本調査のような結果となった要因をさらに詳しく分析することが挙げられる。具体的には、

- 1) -i/-cita 形受身文において無生主格補語が許容される条件が、実際の例文に当てはまるかを調査すること
 - 2) アスペクトについての結果に対する要因を提示すること
 - 3) 主格補語の有生性とアスペクト間の結び付きについて検討すること
- が挙げられる。今後は、コーパスのジャンルや文末の形式等、さらに対象範囲を広げて調査をすることが必要である。

略号一覧

ACC: 対格 / ADJVLZ: 形容詞化 / ADVLZ: 副詞化 / CONT: 継続 / DAT: 与格 / DECL: 平叙文語尾 / GEN: 属格 / INS: 具格 / INTERR: 疑問 / NOM: 主格 / PASS: 受身 / PAST: 過去

参考文献

日本語で書かれた文献

- 伊藤英人 (2012) 「朝鮮語—データ：特集「ヴォイスとその周辺」」『語学研究所論集』 17: 128-141
- 風間伸次郎 (2012) 「まえがき：特集「ヴォイスとその周辺」」『語学研究所論集』 17: 1-22
- 崔昌玉 (2010) 「現代朝鮮語の受動文の類型—‘-i-, -hi-, -li-, -ki-’ による派生を中心に—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』 12: 83-109
- 塚本秀樹 (2012) 「第 17 章 朝鮮語における固有語動詞の受身文、第 18 章 朝鮮語における漢語動詞の受身文」『形態論と統語論の相互作用—日本語と朝鮮語の受身文の対照研究』 387-399 東京：ひつじ書房
- 許明子 (2004) 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』 東京：ひつじ書房
- 円山拓子 (2005) 「朝鮮語の「状態変化」を表わす補助動詞 jida —受身・自発とのつながり—」『言語情報科学』 3: 159-169

外国語で書かれた文献

Brown, L and Yeon, J. (2015) 7 Passives. *The Handbook of Korean Linguistics*, 116-136, West Sussex: John Wiley&Sons.

参考資料・コーパス

- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎 (1993[2012]) 『朝鮮語辞典』 東京：小学館・韓国金星出版社
- 『Pyocwun kwuke taysacen kwuklipkwukewen』『国立国語院標準国語大辞典 (オンライン版)』
<http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp> (最終閲覧日 2016/01/07)
- ‘21seyki seycongkyeyhoyk malmwungchi’ 「21 世紀世宗計画コーパス」